はじめに

目標＝大学入試に 合格 すること

→ 入試問題で（比較的）高得点を取る

そのために必要なものは

古文読解力（本文をしっかり読む）

- **①単語力**
- **②文法**
- **③古典常識**
- **④自分で（初見の）文章を追いかけ、話をつかまえる力**

＊①②③がないと、④は積み上げられない。

①単語…前期は**【古文・知識トレーニング（ＩＣＴ）】**をなんとか（完璧を目指さず）こなして行く。
　ａまた授業を通して、口頭で、プリントなどで暗記すべき古語は伝える。それもマスターしてほしい。
　ｂ苦手な人は、「古文重要事項」３８Ｐの**「重要一六三単語」**を優先するのもいいかもしれない。
　ｃ後期以降は４００～６００語程度の単語帳を繰り返し。

②文法…前期（後期）は**【古文・知識トレーニング（ＩＣＴ）】**をなんとしてでもマスターしていくこと。
　ａ講義ではアットランダムに出て来た事項を解説する。自分で高校の文法の教科書や参考書を読んで頭の中に体系的に整理していく。（『古文重要事項』の該当箇所をマーカー）→教科書の演習問題や文法のワークの問題を解いてみる
　ｂ講義で触れられなかったものを補う。

③古典常識…各講義で説明されたことをマスターしていく。
　ａハンドブック（単語帳的な）を買って持っていてもよい→講義で触れられたことを確認。
　ｂ余裕があれば、夏期～後期になんとなく読む。

④自分で読む力…各講義の中でじっくり。

☆「ＩＣＴ」は、「文法編」と「単語・読解編」とを一気にやるのは大変かもしれない。二曜日に分けるのがおすすめ。（できるだけ早く一週間のスケジュールを作れ）

☆国語は「できるようになる」ことはない。「少しずつ上手になる」しかない。

Ａ予習・授業・復習について→（たぶん）駿台ＨＰ【マイページ】内『大学合格への指針』（各教科の学習方法）のページを参照

①予習
　ａ本文を（書き込みスペースを空けて）正確にノートに写す（写すだけでも読解力向上に役立つ）。
　ｂとにかく自分の（今の力でいいから）読み、設問の答を出しておく（なぜその答えにしたかの説明を用意）。
　ｃ分からないところ（本文の分からないところ、分からない設問は「ここは分からない」と意識しておく。
　ｄその分からない部分について。極力調べ物（単語を辞書で、助詞助動詞を文法書で）しよう。

②授業
　ａ講師から盗めるものはすべて盗む。
　ｂ予習で分からなかった部分、自分が間違えていた部分について「なぜそうなるのか・なぜそれが正しいのか」を理解し、自分が分からなかった理由・間違えた理由を明らかにする。

c 板書以外でも、役に立ちそうなこと、気付いたことをノートする。
d **『古文重要事項』** は毎回持参すること。

③復習
a 講義後できるだけすぐに、その日の講義を頭の中で再現し、プリントやノートを読み返し、マスターすべきこと（単語・文法事項・構文・古典常識・テクニックetc）をマスター。
b 予習段階で分からなかった部分、間違えた箇所について、その原因をつぶす。
c **同じ文章を何度も復習する**。一つの文章が終わった段階で、白紙のテキストを読みつつ、的確に読解できるか、論理的に解答を導けるか確認。あやふやな部分をもう一度プリントやノートに戻って復習。話を忘れた頃（三～四週間後）にまた、さらに前期（後期）が終わった段階で前期（後期）の全ての文章を復習する。

Bテキストの進め方について
前期：基幹編【一】～【四】
共通テスト対策編【A】
後期：基幹編【五】～
共通テスト対策編【D】～

【一】『徒然草』

＊まずは文章を丁寧に読んでみる
＊いくつかの文法事項をマスターする。

A **用言の活用**（古文読解を支える基礎の基礎）**は大丈夫ですか？**
→テキスト１６４Ｐ【動詞の練習題】を解くこと・制限時間４分・合格点満点
満点でない人は、ＨＰ「プリント置き場」（https://kobun.webnode.jp/）の「授業の補助プリント」のページにある「動詞活用五十連発」をやってください。

〔文法〕

B **たり**

	未	用	止	体	已	命	型
たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	**ラ変**
り	ら	り	り	る	れ	れ	**ラ変**

り

接続…「たり」→ラ変以外の**連用形**　←ｅ段音
「り」　→**サ変の未然形・四段の已然形**（命という説も）→**サ未四已「り」と覚える**

意味…イ　**存続**〈…**テイル・…テアル**〉←八割コッチ
ロ　**完了**〈…**タ・…テシマッタ**〉「存続」でオカシければコッチ

・筒の中光りたり。〈筒の中が光っている〉　大切なこと→「たり」＝存続といえることではない

＊「―シ**たり**」「―ｅ**り**」を見た時に〈―**テイル**〉を思い浮かべること。「―テイル」でおかしい時だけ、完了

C **ず**

	未	用	止	体	已	命
ず	（ず）	ず	ず	ぬ	ね	○
	ざら	ざり	○	ざる	（ざれ）	ざれ

接続…**未然形**

＊未然形の「ず」はないと考えてよい
↓下に助動詞は接続できない（断定「なり」は例外）
（←ず＋あり＝ラ変型）助動詞接続用…形容詞と似ている

意味…イ　**打消**（上の語を打ち消し否定する）〈**ーナイ**〉

a **仮定用法「ーずは・ーずば・ーずんば」＝仮定〈もしーないならば・もしーなかったら〉**　形容詞と似ている

この皮衣（かはごろも）は、火に焼かむに焼け**ずは**こそ、まことならめと

〈この皮衣は火に焼いても、もし焼けなかったら本物だろうと……〉

＊文中に「**未＋ず**」があったら、〈**ーナイ**〉を思い浮かべること

D　「助動詞の学習」

①接続　②活用

〇〇〇助動詞

→

③意味用法（訳し方）

→複数ある

∴ ④意味の識別のしかた

⑥ニュアンスがたちどころに頭に浮かぶ

①②③④…暗記しなければならない

⑤…文法問題に答えられるように

しかし

圧倒的に⑥が大切！

E古文では、連体形が体言（名詞）の代わりをすることがある（**準体法**）〔構文〕

＊連用形が体言の代わりをすることもある

元の文　花の咲きたる（体）ことが、いとあはれなりき。〈桜の咲いていることが、実にしみじみ嬉しかった〉

花の咲きたる（体）さまを、見に行かむ。〈桜の咲いている様子を、見に行こう〉

⇦　体言を省略

①助詞付　花の咲きたる（体）が、いとあはれなりき。〈桜の咲いているのが、……〉

花の咲きたる（体）を、見に行かむ。〈桜の咲いているのを、……〉

⇦　助詞を省略

②下に「、」　花の咲きたる（体）、いとあはれなりき。〈桜が咲いている、それが……

＝

連体中止　花の咲きたる（体）、見に行かむ。〈桜が咲いている、それを……〉

①②の場合、**省略されている名詞や助詞を補って訳す**のがよい

＊古文を読んでいて準体法が使われていることはけっこう多い。**今後「準体法」があれば気づくこと**

ついでに↙

F**連用中止**…文と文とを何の工夫もなく（接続助詞を使わず）つなぐ時、上の文の述部は連用形になる。

「鳥鳴く。花咲く。」→「鳥鳴き、花咲く」　「山高し。海深し。」→「山高く、海深し。」

G係り結びの法則　〔文法〕

普通……　○○○、ＸＸ○○○○○○○○○○○○○○○○○。

ある語「ＸＸ」に係助詞が付くと

対応する述部で文の**決着**が付く（終わる）（**結ぶと言う**）

係り結び　○○○、ＸＸ〈係〉○○○○○○○○○○○○○◎◎。

→ **終止形以外の形になる**

【係り結びを起こす係助詞――５つと結びの形】

ぞ	（強意）	体
なむ	（強意）	体
や	（疑問・反語）	体
か	（疑問・反語）	体
こそ	（強意）	已

（その他の係助詞……「は」「も」）

H予備校レベルの授業を受ける資格があるかどうか、テストをしてみよう。

「プリント置き場」の「古文基礎の基礎テスト」をやってみてください。

いまいち出来の良くない人は、「古文基礎の基礎教材」をしたほうがいいです。

I講義で、助詞や助動詞を学んだら、「古文重要事項」にマーカーし、辞書や高校の文法の教科書で例文を確認し、実際の文の中でどのように使われどのように訳せばよいかを見ておくとよい（例文を暗記すれば飛躍的に学力はアップする）　〔学習の仕方〕

＊来週以降、授業前日にはプリントをＨＰ**「イクヲのプリント置き場」**（https://kobun.webnode.jp/）にアップしておきます。リモートで講義を受ける人、なくした人は、ＤＬしておいてください。